



栈敷席 祭りの見どころ「かっちゃ」を特別観覧席でお楽しみいただけます。
チケットをお買い求めの方は、下記取扱窓口までお問い合わせください。
◎取扱窓口：FKKエアサービス株式会社 TEL.0766-22-2212



神幸行列 5月15日 9時30分～15時

伏木神社の春季例大祭の御興の巡行に、子供達の母衣武者行列や、花傘、太鼓が随伴します。



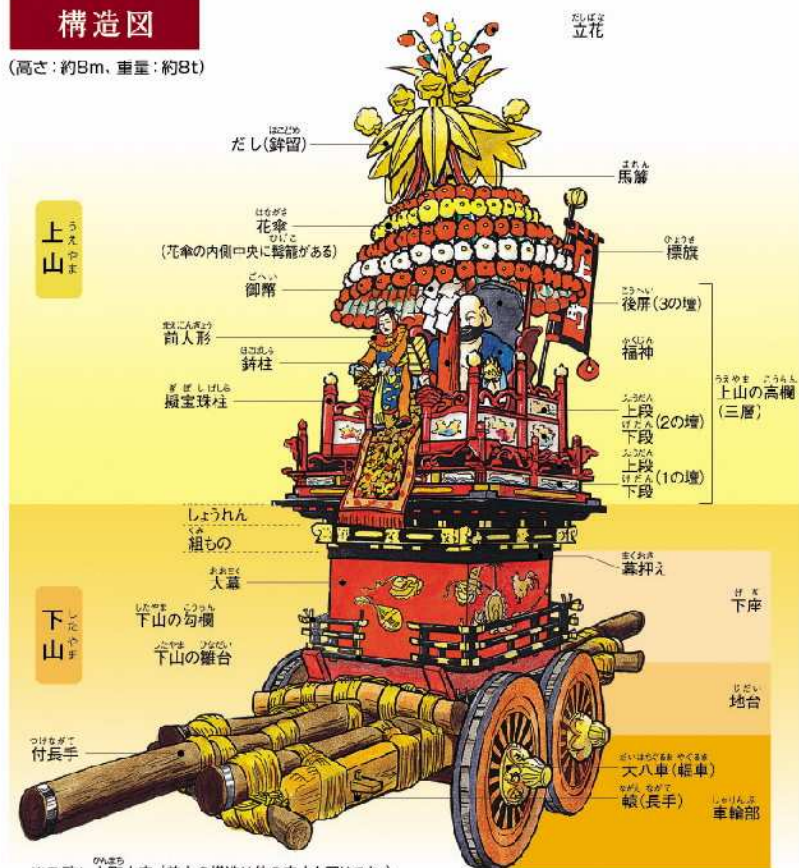
- 会場周辺は大変混雑するため、公共交通機関をご利用ください。伏木駅から本町広場まで徒歩約10分です。
- 祭の前夜5月14日「高山ライトアップ」は山倉前で行われます。(19時～21時)
 - 山車は午前中に各山車町内を奉曳し、伏木神社に礼拝後、10時30分頃本町広場に集合します。夕方、山倉前から花山車から提灯山車へ、模様替えをします。
 - 十七軒町廻船問屋の小判・餅まきは、12時頃伏木駅前で行われます。
 - 19時30分頃のかっちゃは、6本の山車が並んで氷見伏木信用金庫前で移動した後、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かっちゃ終了後は奉曳順路に戻ります。
 - 22時30分頃のかっちゃは奉曳順路途中で、3本ずつそれぞれ本町広場と法輪寺前へ移動し、ぶつかり合います。かっちゃ終了後は奉曳順路に戻り、伏木神社礼拝をもって祭礼行事は全て終了となります。

高岡市観光交流課

〒933-8601 富山県高岡市広小路 7-50 TEL.0766-20-1301 FAX.0766-20-1496
高岡市観光ポータルサイト「たかおか道しるべ」<https://www.takaoka.or.jp>
「けんか山ホームページ」www.kenkayama.jp

構造図

(高さ:約8m、重量:約8t)



所要時間<電車・飛行機・自動車> 鉄道の所要時間は、それぞれの区間の最速です。

電車	東京駅	北陸新幹線 かがやき-はくたが	2時間20分	新高岡駅
電車	大阪駅	サンダーバード	2時間33分	新高岡駅
電車	名古屋駅	東海新幹線 米原駅 特急しんがき	23分	新高岡駅
飛行機	羽田空港	全日空	1時間	新高岡駅
飛行機	富山	富山きとと空港	17分	新高岡駅
自動車	線馬IC	関越自動車道	78.6km	高岡IC
自動車	吹田IC	名神高速	109.5km	高岡IC
自動車	一宮IC	名神高速	4.6km	高岡IC

<高岡駅より> JR:氷見線→伏木駅(約15分)下車すぐ
バス:伏木経由氷見行伏木循環(東廻り・西廻り)→伏木支所前臨時バス停下
5月15日夜は、高岡駅と伏木駅前をつなぐお祭りシャトルバス(乗車無料)を運行します。詳しくは、交通規制図(各種HP掲載)をご覧ください。

<高岡ICより> 国道8号線 富山方面へ[下田]交差点左折→約20分

<高岡北ICより> 県道32号線 伏木方面へ→約15分

「かっちゃ」の動画配信中!



(公社)高岡市観光協会 TEL.0766-20-1547
高岡市観光案内所 TEL.0766-23-6645
伏木観光推進センター TEL.0766-44-1199
新高岡観光交流センター TEL.0766-30-2626
※2019年3月時点の情報です。(25,000)



富山県高岡市

伏木神社春季例大祭
伏木曳山祭
毎年5月15日開催
高岡市指定無形民俗文化財

魂と魂の激突
渾身の力をこの一瞬に
かっちゃ

提灯山車



ときめき、わき立つ、港町「伏木」の伝統と心。

伏木は、恵まれた地の利から、天平時代には越中国府が置かれ、万葉の歌人でもあった大伴家持が国守として、赴任。また近世からは越中有数の港町として栄えてきました。

伏木曳山祭は、その港町の海上安全と海岸を鎮護する伏木神社の春の祭礼として行われます。始まりは江戸後期の1814年(文化11年)。海岸にあった神社が波で崩れ、現在地へご神体をお渡りする時のお乗り物として曳山が造られたと伝えられています。

神座に七福神がまつられた壮麗な曳山は、まさに港町伏木の歴史文化のシンボルであり、かぎりない誇りです。

昼は美しい花傘を広げた花山車として、夜には約360個もの提灯で彩られた提灯山車として、潮風をまとい行く粋と意気がわき立つような鮮やかさ、勇壮さは人々をどよめきの渦でつつみます。



伏木神社

昼は春の爽やかな潮風と共に

花山車

(はなやま)



夜は激しく燃える炎のごとく

提灯山車

(ちようちんやま)



「かっちゃん」に燃える、伏木男児の心意気。

先端に付長手という約5mの檜の大木を、大砲のごとく取り付けた曳山の重さは約8トン。宵闇が迫ると、花山車から提灯山車へと姿を変え、期待と興奮の渦に町全体が包まれます。

やがて腹の底に共鳴するように山鹿流出陣太鼓が鳴り響くと、地鳴りとともに動き、駆ける山車と山車が全力でぶつかり合います。これが祭りの最高潮「かっちゃん」です。

「かっちゃん」は、伏木の男たちが心意気のすべてを込め、その心意気が輝き燃える一大イベントです。



宵山ライトアップ
5月14日 19時～21時

山倉前にて、花山車のライトアップとともに、威勢のいい騒子で祭の前夜を盛り上げます。

町・山車	なかまち 「中町」 ひょうたん山車	みなとまち 「湊町」 ちようちよう山車	いっさかまち 「石坂町」 字山車	ほろまち 「寶路町」 せんまい山車	ほんまち 「本町」 がながら山車	かんまち 「上町」 ささ山車	じゅうしちけんちよう 「十七軒町」 ほら貝山車
花山車							
だし(鉾留)	せんなりのわたん しそんまんだい 千成瓢箪(子孫萬代)	こちめい ざいほうふくとく 胡蝶(財宝福德)	かいしよ じよ あらうちめいじよ 楷書の扇の字(不老長寿)	かき せんざいふんどう ふう きちくざい 重ね千枚分銅(富貴蓄財)	これい ほうかいしよふく 鈿鈴(宝来招福)	さきりんどう えんじちようせい 笹竜胆(延寿長生)	ほらかい みらいざいごう 法螺貝(未来永劫)
みくじん 福神	ふくじくじよ 福祿寿(天明元年1781年作)	びしよんてん 毘沙門天(明治34年1901年作)	たいてん 大黒天(万延元年1860年作)	えびす 恵比須(制作年不詳)	びんざいてん 弁財天(天明元年1781年作)	ほてい 布袋(天明元年1781年作)	じゅうじん 寿老人(平成16年復元)
まにんざん 前人形	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(操り人形)	からこ 唐子(平成20年復元)
こうへい 後屏(鏡板)	こくたつ 郡大通(中国の仙人)	こくたつ 黄石公と張良(中国の故事)	こくたつ 菊慈童(中国の故事)	こくたつ 西王母(中国の故事)	こくたつ 漢の武帝(中国の故事)	こくたつ 黄石公と張良(中国の故事)	こくたつ 鶴亀(中国の故事)
特徴	下山の構造が伊達柱になっているなど、行装が他の山とは違っています。高欄の欄干に止ませた小鳥はこの山の独特のデザインで、下山の彫物の均整のとれた美しさと共に見どころのひとつです。	からきの後屏や褐色で統一した上山の彫刻など、全体に男性的な偉容を誇っています。また擬宝珠柱や横木類の朱と金地との鮮やかなコントラストも見事です。	「菊慈童」に因んだ大輪翳の彫りものが見事です。高欄の上段が一連の透かし彫りふうの丸彫朱欄になっており、下山の小壁部分がハメ込み式の「箱欄間」になっています。	後屏の主座に「標山」の西王母を立て、上山の彫りものは西王母と山神の恵比須(波清文と「高砂」の姉妹)ゆかりのモチーフによって、整合的に装われています。	全体に金碧の効果が発出しており、特に竹林の緑色との対照は鮮やかです。また白漆塗の透かし欄間は独自のもので、出来映えも見事です。	文人画の「蓬萊群仙図」を偲ばせる多数の仙人彫刻と、その構図の巧みなこと、躍動的な造形と合わせて伏木曳山の白眉と言えます。	十七軒町の曳山は、明治の大火で焼失しましたが、伏木町とけんか山が永遠に発展することを願い復元いたしました。高欄には、「未来永劫」を表す鶴のほか、親子獅子や四神獣の彫刻が施されています。